

# 病あっても自分らしく

まちなかメディカルカフェE3周年

## 「寄りそう心」を考える

で宮都  
演念宇  
講記



「病に寄りそう心」をテーマに開かれたメディカルカフェの3周年記念講演会＝24日午後、県総合文化センター

た。語らいによって、病気があってもその人らしくいられるよう目指すカフェ。活動のベースにある「病に寄りそう心」をテーマとして、来場者約200人が考えた。

メディカルカフェは2013年4月、県内の医療、介護専門職らによる「がんカフェとちぎ」(代表・平林かおる県がんセンター医師)がスタート。原則、毎月第4日曜日、宇都宮市江野町の下野新聞NEWS CAFE(ニュースカフェ)で開き、延べ600人以上の患者らが訪れている。

講演会では、講演とパネルディスカッションが行われた。岐阜県高山市丹生川町の飛騨千光寺住職で、患者の悩みに寄り添う「臨床宗教師」の天下大圓さん

(61)は「病気で病院に行く」と、心の問題にはほとんど関わってもらえない」と指摘。「心を支えるケアが必須」とし、メディカルカフェなどの重要性を訴えた。

興夫教授(62)や、那須烏山市神長の有償ボランティア「キャンナス烏山」代表で訪問看護師横山孝子さん(51)らが、それぞれの取り組みを語った。

自らの転移がんと向き合い、まちなかメディカルカフェなどに足を運ぶ足利市朝倉町2丁目、高田久さん(77)は講演会に参加し「カフェへの参加は自分の生きる目標でもある。コンビニのようにもつと広げればいい」と話していた。

(山崎一洋)